



病む人の立場に立って

安全でより質の高い医療を提供します



名城公園 おふけ池

基本方針

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1 病める人の尊厳と権利を守る医療の推進 | 4 拠点病院としての役割の強化 |
| 2 地域医療機関との連携と役割分担 | 5 研修・教育・研究の推進 |
| 3 高度医療の実践と救急医療の充実 | 6 安定した医療を提供する基盤の確立 |

患者さんの権利

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ○個人の人格を尊重した診療を受ける権利 | ○納得のいく説明を受ける権利 |
| ○信頼に基づく医療を受ける権利 | ○診療録の開示を求める権利 |
| ○個人情報保護の権利 | ○検査・治療法などの選択あるいは拒否をする権利 |
| ○診療情報提供を受ける権利 | |

お願い

- | | |
|-----------------------------------|---|
| ○病気に関する正確な情報を医療者（医師・看護師等）にお伝え下さい。 | ○災害時あらゆる危険から回避するため、職員との連携にご協力をお願いいたします。 |
|-----------------------------------|---|

もくじ

巻頭言	2	医療最前線	6
院長退任の辞	3	連携医紹介	7
新任医師・研修医紹介	4・5	外来診療担当表	8

巻頭 言

新任のご挨拶



名古屋医療センター
副院長
富田 保志



この原稿を書いているのは、新型コロナウイルス対応のため、政府による緊急事態宣言が出された4月8日直後です。全国での感染者増加が著明となる中、特に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の増加傾向が顕著であり対象区域とされました。4月10日には、愛知県も県独自に宣言を出しました。目に“見えない”ウイルスという相手、現時点で感染収束の先が“見えない”こと、悪化している経済・生活の先が“見えない”など、まだ国民にとっては不安ばかりが大きくなっていく途上です。医療現場では、重症患者数が対応不可能なまで増え医療崩壊が起こり得るとされています。すでに医療崩壊が生じている欧米からの報告にあるように「患者の選択」という今まで我々が通常の医療では未経験の厳しい選択

が必要となるかも知れません。限りある医療資源、中でも人工呼吸器に関しては、適応を限定して使用することになるかも知れません。呼吸器が残り1台しかないにも関わらず、使用を必要とする2名がいる場合にどちらの患者さんに使用をするのか？あるいは、その時点で長期間呼吸器をつけているが状態が悪化し助かる見込みのない患者さんの呼吸器を外すことを考えるのか？これらの判断には、医療、倫理などの難しい問題が含まれるため、現場の医療者に判断させるという負担を強いると、医療者の心にダメージを与えることが十分あり得ます。今後もコロナとの戦いで、さらに多大な犠牲が出ることは避けられないかも知れませんが、少しでも犠牲を減らせるように人類が協力して立ち向かうことが求められています。しかし、先進国の多くでも感染拡大しており、他の国へ援助する余力はなさそうです。今から約100年前のスペイン風邪は何千万人もの犠牲を出していますが、現在は当時より医療が進歩し、また世界中で情報を共有できるようになっています。正しく知り、正しく行動していくことで戦いに勝つことを願っています。



退任のご挨拶



名古屋医療センター
前副院長

奥田 聡

(国立病院機構東名古屋病院 院長)

令和2年4月1日をもちまして名古屋医療センターを辞し、東名古屋病院へ異動となりました。平成7年から23年間余り本当にお世話になりました。心より御礼申し上げます。病院を変わるにあたり最近まで外来で担当させていただいていた患者さんの引き継ぎサマリーを作成いたしました。300人を超える数ですので大変な作業でしたが、また楽しくもありました。10年以上診させていただいた患者さんがほとんどで、中には20年以上通院していただいた方もおられます。あらためてカルテを見直してみると、ご病気とは別にそれぞれの方の人生の様々な場面に立ち合わせていただいたことが思い返されました。ご家族を亡くされるような悲しい事件もあれば、ご結婚されたり、子供さんが生まれたりするような幸せなイベントもありました。この間、私の人生にも様々な出来事がありました。1年に数回、診察室でお会いするだけの関係ではありながら、多くの方々と喜びや悲しみをほんの少しだけ共感しあえる貴重な体験をさせていただいたと思っています。診断や治療としてはうまくいったこともうまくいかなかったこともあります。辛抱強く通院していただいた皆さんに深く感謝申し上げます。また、たくさんの患者さんをご紹介いただきました連携医の先生方にもあらためて御礼申し上げます。

私は専門が脳神経内科ですので、病棟では仲間とともに脳卒中などの脳神経救急疾患を診療させていただきました。副院長になってからはカンファランスに参加するだけになってしまいましたが、脳神経内科として診療させていただいた脳卒中患者さんは約20年で1万人を超えました。素晴らしい仲間とともに仕事ができたことに感謝しています。脳卒中は国民病とも言えるありふれた病気ではありますが、個々の患者さんを拝見しますと未だにわからないことも多く、この病気の奥深さを感じます。本年1月に脳卒中・循環器病対策基本法が施行され、今後、診断・治療法、予防啓発などがさらに進歩する

と思います。名古屋医療センターの脳神経内科、脳神経外科、救急集中治療科、リハビリ科、看護スタッフをはじめとして全病院を挙げてこれからも多くの患者さんを救ってくれることを期待しています。

この20年間に医療も大きく変わりましたが、その中で研修医教育、医療安全、地域連携、医療倫理などに関わらせていただきました。2004年に始まった初期臨床研修制度では将来どのような専門に進むにせよ最低限の一般診療ができるように教育することが求められました。当時、各領域の専門集団の集まりであった当院でどのように医師を育てたら良いのが随分苦心したことを覚えています。研修医教育部門の名称を「卒後教育研修センター」にするか「卒後研修教育センター」にするか、当時の院長と悩んだことを覚えています。結局、語呂が良かったので前者にしましたが、今から考えると意味的には後者の方が良かったかな？とこっそり反省しています(笑)。各専門科から寄せ集めた熱い指導医たちでスタートした卒後教育研修センターですが、その後、総合内科、さらに救急集中治療科が研修教育に加わり、毎年みごとにバランス感覚のある素敵な研修医を育ててくれています。研修医のお姉さん、お母さん役を勤めてくださっているセンター事務の皆さんにも感謝です。

私の赴任後2年ほどして日本全国で医療事故への関心が高まり、当院にも医療安全管理室ができました。以後、異動するまで医療安全に関わらせていただきました。「ヒトはミスを犯す動物である」「医学は不確実な科学である」という真実の中で、どう患者さんの安全を守るか、どう患者さんにご理解いただくかは医療における永遠の課題かと思っています。絶えず医療安全を考えながら医療を行う文化の醸成にこれからも全職員で取り組んでいただければと思います。医療安全管理室の皆さん、大変ですが頑張ってください！

私は毎朝、大津通りを北に向かって通勤していましたが、街路樹の緑の中に当院の建物が現れる景色が好きでした。県庁、市役所に並んだ重厚な佇まいは格調高く、この病院で働くことに誇りを感じたものです。しかし、さすがに築30年以上経過し、外観はともかく配管、設備の老朽化が目立つようになり、建て直しが喫緊の課題となっています。若いスタッフの力を結集し、院長を支えて新病院を建設していただければ幸いです。

最後に私の5年間の副院長生活をいつも美味しいコーヒーを入れて支えてくれた秘書さん方に深謝し、お別れの挨拶とさせていただきます。

新任紹介

医師



糖尿病・内分泌内科医師 丹羽 靖浩

はじめまして。4月から糖尿・病内分泌科で勤務させていただくことになりました丹羽 靖浩です。糖尿・内分泌全般以外には、漢方専門医としての経験を活かした治療を目指しています。至らない点もありますが皆様のお役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



総合内科医師 安野 史人

4月より総合内科で勤務しております安野 史人(あんの ふみと)と申します。皆さまのお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。



脳神経内科医師 加藤 隼康

平成21年長崎大学卒、安城更生病院、岡崎市民病院、名古屋第二赤十字病院を経て、平成29年より名古屋大学脳とこころの研究センターにて、脳神経回路、画像解析に関する研究を行ってまいりました。地域の患者様、病院のお役に立てるようがんばりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



外科医師 竹田 直也

お世話になります。平成25年福井大学卒、外科の竹田直也と申します。研修から7年間、三重県の市立四日市病院に勤務していました。4月から名古屋の中心地に勤務することができうれしく思っています。まだ慣れないことも多く、一日でも早く戦力になれるよう頑張ります。ご指導の程、お願い致します。また、当院で親族が働いています。併せてよろしくお願い致します。



脳神経外科医師 安藤 遼

はじめまして。4月より脳神経外科で勤務させていただくことになりました安藤です。2016年から2017年にかけて1年弱ですが、当院に所属していた経緯もございます。脳神経外科一般に加え、脊椎・脊髄疾患に対しても積極的に治療をしたいと考えております。丁寧な診療・手術を心がけたいと思います。至らない点もあり、ご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



脳神経外科医師 玉利 洋介

4月より脳神経外科で勤務しています。当院は6年ぶり、その間に脳血管内治療を専門として治療をしていました。地域での診療の役に立てる様に頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



泌尿器科医師 平林 毅樹

平林毅樹(つよき)と申します。4月より泌尿器科に勤務させて頂くことになりました。今後とも宜しくお願いいたします。



病理診断科医師 村上 善子

前任の愛知県がんセンターで約10年間、がんの診療に従事して参りました。名古屋医療センターでは、炎症を加えた様々な疾患の病理診断に携わることで、病理医としての幅を広げたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

専修医



腫瘍内科専修医 西堀 理香

はじめまして。私は岐阜県出身で、藤田保健衛生大学を卒業後、大垣市民病院で初期研修・内科勤務を行いました。その後出産・育児のため退職しました。プランクがありますが頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。



腎臓内科専修医 渡邊 麻衣子

初めまして。渡邊 麻衣子と申します。奈良県出身で、大学時代は九州で過ごしました。しばらくは慣れないことも多く、色々至らない点があるかもしれませんが、ご指導のほどよろしくお願い致します。

専攻医



内科専攻医 指宿 麻悠

はじめまして。4月より内科専攻医としてお世話になります。指宿麻悠と申します。1年間内科ローテをさせていただく予定です。不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけするかと思いますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



内科専攻医 野村 彰宏

はじめまして。新内科専門医のプログラムで中部労災病院より6ヶ月間研修させていただきました。限られた期間ですが精一杯頑張りますので何卒よろしくお願い致します。



内科専攻医 茂原 知弥

はじめまして。長野県から来ました茂原(シゲハラ)と申します。名古屋ははじめてなので病院のことだけでなく地域のことも分からないことが多いですが頑張ってきたと思いますのでよろしくお願い致します。内科の中でも循環器内科を考えています。



内科専攻医 松本 直樹

4月より採用頂きました。ご迷惑をおかけすることが多いかと存じますが、診療を通して皆様のお役に立てるよう精進して参ります。何卒宜しくお願い申し上げます。



眼科専攻医 高士 典子

はじめまして。4月より眼科専攻医として勤務させていただくことになりました高士(タカシ)と申します。名古屋医療センターに来て日が浅く、未熟な点も多いですが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。

専攻医



小児科専攻医 柳澤 彩乃

はじめまして。小児科専攻医3年目の柳澤彩乃です。分からないことがたくさんありますが、一生懸命頑張るので、よろしくお願いいたします。



耳鼻いんこう科専攻医 重山 真由

はじめまして。4月より耳鼻いんこう科専攻医として勤務させていただくことになりました重山 真由と申します。至らない点もあるかと思いますが、皆さまのお役に立てるよう頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

初期研修医



初期研修医 新畑 里咲

今年度より初期研修医としてお世話になっております。出身地は名古屋市で、県外の大学を出て、6年ぶりに愛知県に戻ってきました。名古屋医療センターで研修生活を始めることができて嬉しく思っております。ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、精一杯頑張りますので、何卒よろしくお願いいたします。



初期研修医 石黒 裕季子

はじめまして、初期研修医としてお世話になっております。愛知県出身の愛知県育ちです。何事にも挑戦する気持ちを持って、真摯に研修に臨みたいと思っております。至らない点も多いかと思いますが、精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



初期研修医 岩間 有香

初めまして、4月より初期研修医としてお世話になります。名古屋市出身なので、地元である名古屋医療センターで医療に携われることをとても嬉しく思います。至らぬ点も多くございますが、医師として少しでも多くのことを吸収し成長できるよう精一杯精進して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



初期研修医 太田 紗代

明るく優しい、そして熱心な先生方が多く、名古屋医療センターで研修ができることをとても嬉しく思っています。研修中、多くのことを経験し、成長できるように、精一杯頑張っていきたいと思っております。不慣れな部分が多く、ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、よろしくお願いいたします。



初期研修医 鈴木 董

桜が咲き、暖かな日が増えてまいりました。名古屋城のお膝元、4月より名古屋医療センターで研修させていただきます。患者さんの立場からも考えられる医師を目指したいと思っております。至らないことが多いかと思いますが、元気に精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



初期研修医 平良 俊樹

初めまして。4月から名古屋医療センターで研修させて頂いています。沖縄から来まして、大学時代はウインドサーフィン部に所属しておりました。至らない点も数多くあるかと思いますが、2年間一生懸命頑張りたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



初期研修医 東郷 建世

本年度よりお世話になります。この2年間で医学の知識は勿論、運用能力や患者さんに寄り添う態度などに磨きをかけていきたいと思っております。迷惑をかけることも多々あると思いますが、誠心誠意頑張りますので御指導の程、宜しくお願い致します。



初期研修医 羽田 拓史

4月から研修医として働かせて頂くことになりました。患者さんの話を聞き、考えていることをよく理解していきたいと思っております。また様々な職種の方とコミュニケーションをとり、よりよい医療が提供できるように取り組んでいきたいと思っております。2年間全力で取り組んでいきます。よろしくお願いいたします。



初期研修医 深澤 伽音

念願だった名古屋医療センターでの研修ができることを、心より嬉しく思っております。山梨県出身です。英語が好きで、大学ではESSに所属していました。また、在学中に書道の師範試験に合格しました。話しやすい、患者さんに寄り添った医師になるのが夢です。日々精進して参りますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



初期研修医 降旗 敏熙

はじめまして。暖かい名古屋の気候に慣れてやってきました。名古屋医療センターで医師としての第一歩を踏み出せることを大変嬉しく思っております。精一杯、研修に取り組みますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。



初期研修医 柳田 顕生

初めまして。4月より初期研修医として名古屋医療センターに勤務させていただくことになりました。患者さんの立場に立って考え、行動できる医師を目指し、地道に一生懸命働きたいと思っております。ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。



初期研修医 山口 祐平

京都での学生生活を終え、6年ぶりに名古屋に帰ってまいりました。名古屋医療センターで医師としてのスタートを切れることを非常にうれしく思っております。ご迷惑をおかけすることも多々あるかもしれませんが、患者さんのために尽力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



初期研修医 山田 陽平

4月より初期研修医としてお世話になります。生まれてずっと名古屋市民、生粋の名古屋人の私にとって当院は身近な存在でもありました。至らぬ所もまだ多い中、親身な先生方のご指導の下で働けるのを楽しみにしております。育てて頂いた地域の皆様にも少しでも恩返しできるよう日々精進して参ります。宜しくお願い致します。

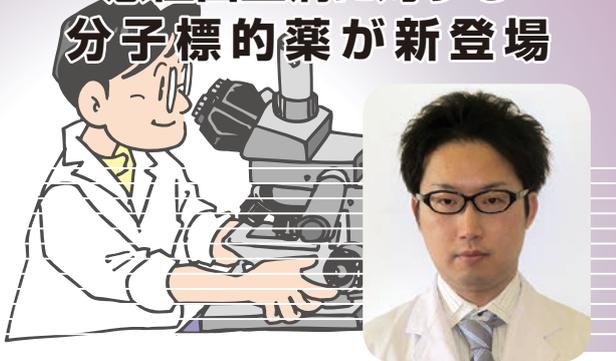


初期研修医 渡邊 寛仁

初めまして。名古屋生まれ名古屋育ちの生粋の名古屋人です。大学は九州ですが、名古屋医療センターの魅力に惹かれ名古屋に戻って参りました。大学では卓球部に所属し、趣味は野球観戦です。名古屋医療センターで多くのことを学び、患者さんのために精一杯努力していきたいと思っております。2年間よろしくお願いいたします。

医療最前線

予後不良の遺伝子異常を持つ 急性白血病に対する 分子標的薬が新登場

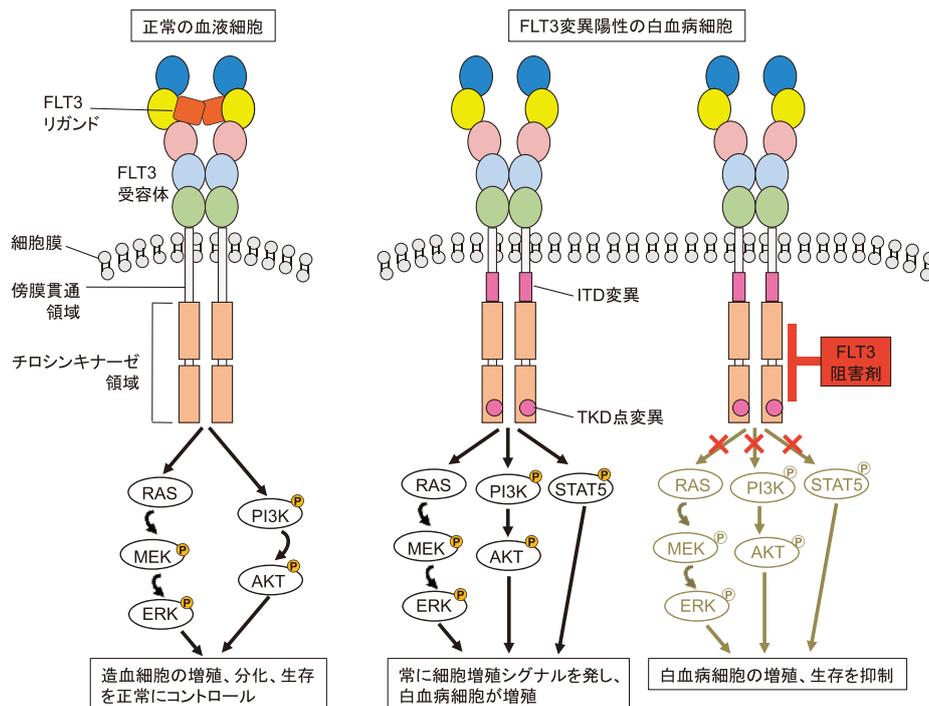


血液内科医師
平野 大希

初めて診断された急性骨髄性白血病(AML)の患者さんに対する標準的治療は、アントラサイクリン系抗癌剤とシタラピンの併用が寛解導入療法です。一部の化学療法のみでは予後不良と考えられる患者さんには造血幹細胞移植を行います。近年、AMLの網羅的遺伝子変異解析が進み、遺伝子変異および染

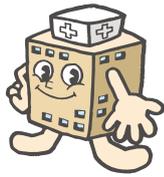
色体異常に基づく予後因子の層別化がされ、それらの遺伝子変異を標的とした分子標的薬が開発されつつあります。FLT3(FMS-like tyrosine kinase 3)遺伝子変異は成人AMLの約30%に認められ、予後不良因子(一部のパターンを除く)とされます。FLT3は、レセプター型チロシンキナーゼで未熟な造血細胞に発現し、そのリガンドが結合するとチロシンキナーゼが活性化され、造血細胞の分化増殖に関与します。遺伝子変異は2種類に大別され、傍膜貫通領域での重複変異FLT3-ITD、とキナーゼ領域における変異FLT3-TKDです。いずれの変異においてもFLT3キナーゼは恒常的に活性化され、主にRAS/MAPK、PI3K/AKTなどの下流分子を活性化させ、FLT3-ITDではさらにSTAT5の活性化も誘導することで白血病細胞を増殖促進させます。FLT3阻害剤はFLT3を介したシグナル伝達を阻害し、FLT3変異を有する白血病細胞の増殖・生存を抑制する分子標的薬です。チロシンキナーゼ領域部位のATP結合ポケットに結合するものなどがあります。有効性・忍容性の確認を経て、この2年で国内で保険承認されたのは、FLT3に高い選択性と親和性を指標にして開発された第二世代のギルテリチ

FLT3阻害剤の作用機序



ニブとキザルチニブの2つがあり、予後不良のAML患者さんを救済できる可能性が広がりました。現在は再発・難治のFLT3変異陽性AMLのみの保険適応です。初発症例での効果、有効性を予測する因子、耐性化の機序などの解明が課題であり、研究はまだ進行中です。これからも急性白血病に対する新たな分子標的薬の開発、承認が期待されます。

連携 医 介 紹



院長
杉田 裕輔



おなか 内科 東白壁クリニック

当院は内科・消化器内科を主とし、地域の皆様のホームドクターとなることを目指し、令和元年12月にオープンしました。当院の特色としては、胃カメラ・大腸カメラやCTといった専門的な検査をはじめとし、超音波、血液検査などの一般的な検査まで幅広い検査をクリニック内で行うことが可能なことです。このため、高血圧や糖尿病といった生活習慣病はもちろん、消化器疾患や日帰りの大腸ポリープ切除術などの専門的な治療にも対応しております。特に内視鏡検査では、ご希望があれば鎮静剤を用いた上で検査を行っており、開院後まだ間もないですが、これまでにたくさんの方々に内視鏡検査を受けて頂くことができました。

私はよく外来で内視鏡検査を受けることを迷われていたり、恐ろしいといったイメージを持たれている方にお話しさせて頂くのですが、「胃・大腸は人間の内臓の中でも数少な

い、直接見ることでできる臓器」です。消化器では他にも肝臓、胆のう、すい臓といった臓器を扱いますが、これらの臓器は多くの場合、超音波やCT、MRIといった画像検査を主に用いて検査・診断を行うことがほとんどです。胃がんや大腸がんは、がんの中でも頻度が高いものであり、定期的にこれらの臓器の状態をチェックしておくことは、健康を維持するために非常に有用だと考えております。



ただでさえ通院をしたり、検査を受けることは気が重くなりがちだと思います。当院では内装にも気を使い、なるべく開放的で、明るい院内になるよう工夫しております。また、患者様一人一人に、少しでも楽に通院したり検査を受けて頂けるようなコミュニケーションを取るよう努めております。これからも皆様の健康を維持するために、誠実に対応して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

おなか 内科 東白壁クリニック

所在地：〒461-0027 名古屋市東区芳野一丁目1-15
電話：052-908-3721
診療科目：内科・消化器内科・小児科
URL：<https://onaka-nagoya.com/>

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:30	○	○	—	○	○	○
13:30~16:00	△	△	—	△	△	—
16:30~18:30	○	○	—	○	○	—

△13:30~16:00内視鏡検査(予約制) 休診日:水曜日・土曜日午後・日曜日・祝日



理事長
真砂 敦夫



社会医療法人 大真会 大隈病院

当院は名古屋市北区大曾根に昭和51年に開設しました。「地域の皆様に信頼され愛される病院を目指し、最善の医療を行う」を病院理念としています。平成27年の増改築に伴って病棟を再編成し、一般急性期81床、地域包括ケア病棟76床のケアミックス病院となりました。平成31年4月には社会医療法人化し、地域に根ざした病院運営を心がけています。2次救急病院としての役割はもちろんのこと、ポストアキュート・サブアキュートの受け皿、施設・在宅医療との橋渡ししが、私どもが得意とする分野です。名古屋医療センターさんをはじめ高次医療機関から病状安定後の患者様のご紹介をいただいています。

当院は、とくに脳・脊髄脊椎疾患の診療に力を入れております。脳卒中では、急性期から多職種で治療に取り組み、社会復帰支援を行います。リハビリスタッフのモチベーションは高く、ボトックス治療を取り入れた短期集中リハビリ入院



も開始しました。平成28年からはガンマナイフが稼働し、地域中核病院との連携が深まりました。おかげさまで年間約300症例の治療実績となりました。また当院では、脊髄刺激療法や脳深部刺激療法といった機能的脳外科手術にも対応しています。

これからの超高齢化社会を見据えて、当院の内科・外科医師は、総合診療科的な対応を心がけて下さいます。在宅医と連携をとり、検査・レスパイト入院、胃瘻造設やCVポート作成の相談も可能です。当院整形外科においても、外傷骨折・変形性関節症等の手術治療を応需しており、地域住民の方々の期待に添えるよう励んでいます。医師、看護・パラメディカル・MSW一丸となって地域医療に貢献していく所存です。

おおくまびょういん

社会医療法人 大真会 大隈病院

所在地：〒462-0825 名古屋市北区大曾根2丁目9番34号
電話：052-991-2111 FAX：052-991-2113
受付時間：8:30~11:00(初診) 8:00~11:30(再診)
診察時間：9:00~11:30 ※救急受診希望の方はお電話でご相談下さい。
病棟：157床(一般81床、地域包括ケア76床)
診療科目：脳神経外科・脳神経内科・内科・外科・整形外科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・麻酔科・放射線科
URL：<https://www.ookuma-hospital.or.jp/>

外来診療担当表

Table with columns for Department (診療科), Day (月), and Doctor (氏名). Includes sections for Internal Medicine (内科), Surgery (外科), and Specialized Clinics (専門外来).

Table with columns for Department (診療科), Day (月), and Doctor (氏名). Includes sections for Plastic Surgery (整形外科), Dermatology (皮膚科), Pediatrics (小児科), Ophthalmology (眼科), and others.

※ stomatology... ※ referral... ※ endovascular... ※ initial visit... ※ LFTU...

○外来受付時間 ○初診/午前8時30分~午前11時 ○再診/午前8時20分~午前11時
○休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始(12/29~1/3)
◎担当は都合により予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。